

街 区 の 再 生

信州大学工学部建築学科
建築設計製図Ⅳ 課題

課題内容

- 須坂市の歴史的街区を対象として、都市組織の個別的再生を通じて、街区全体を段階的に再生する。
- その全体プログラムを組みたてるとともに、個別的再生を個々に設計する。
ex)...step0 → step1 → step2 → step3

敷地調査（対象街区）



敷地調査（対象街区）

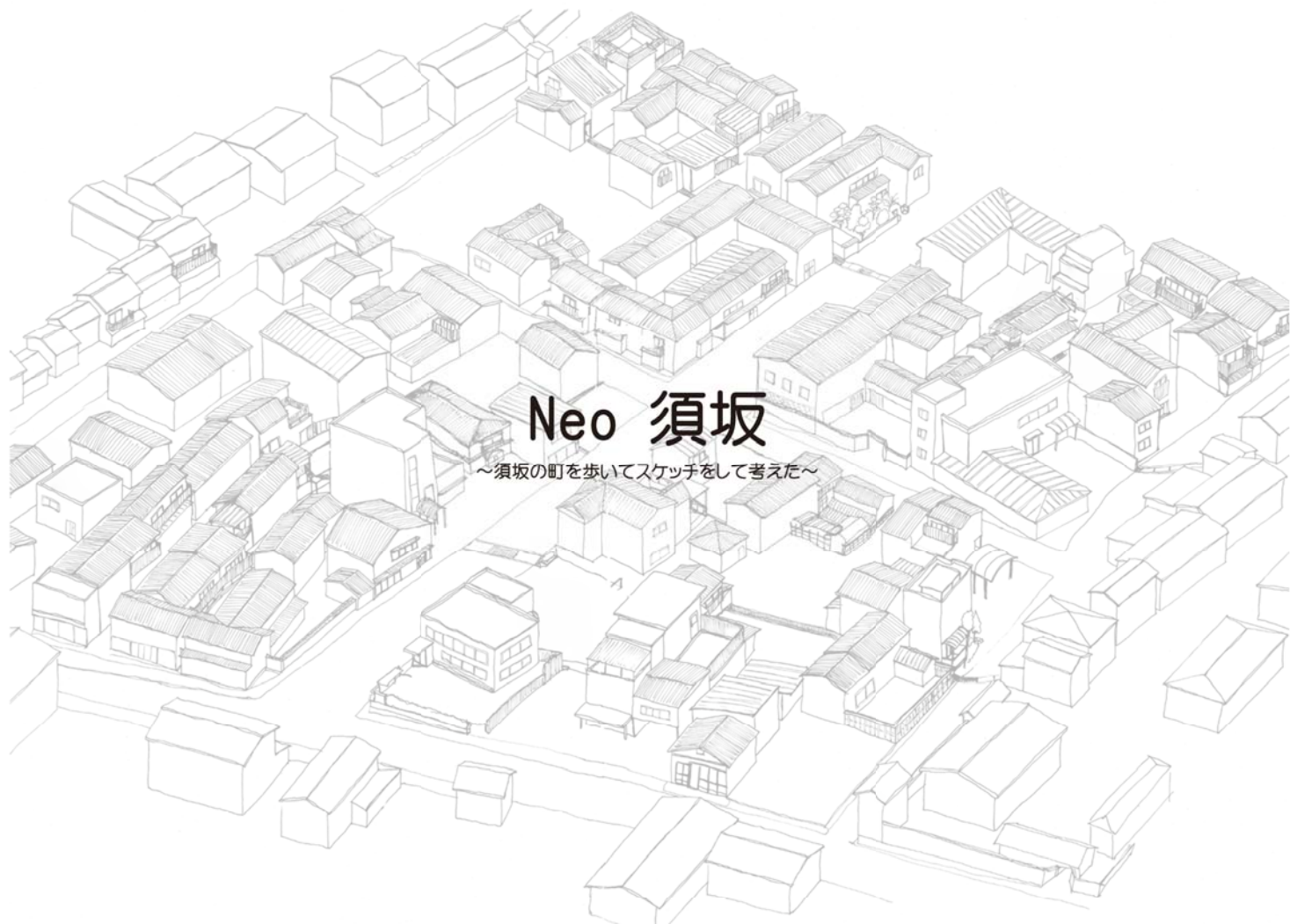


講評会

●前半：2017/11/09

●後半：2018/01/18

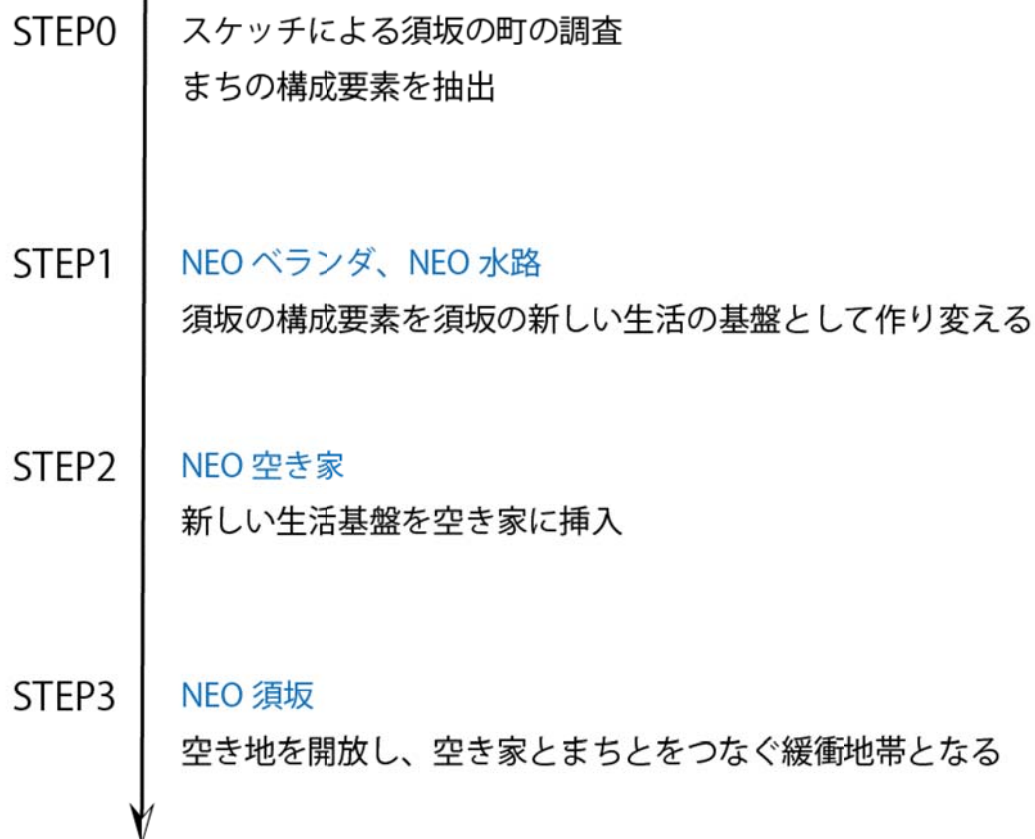


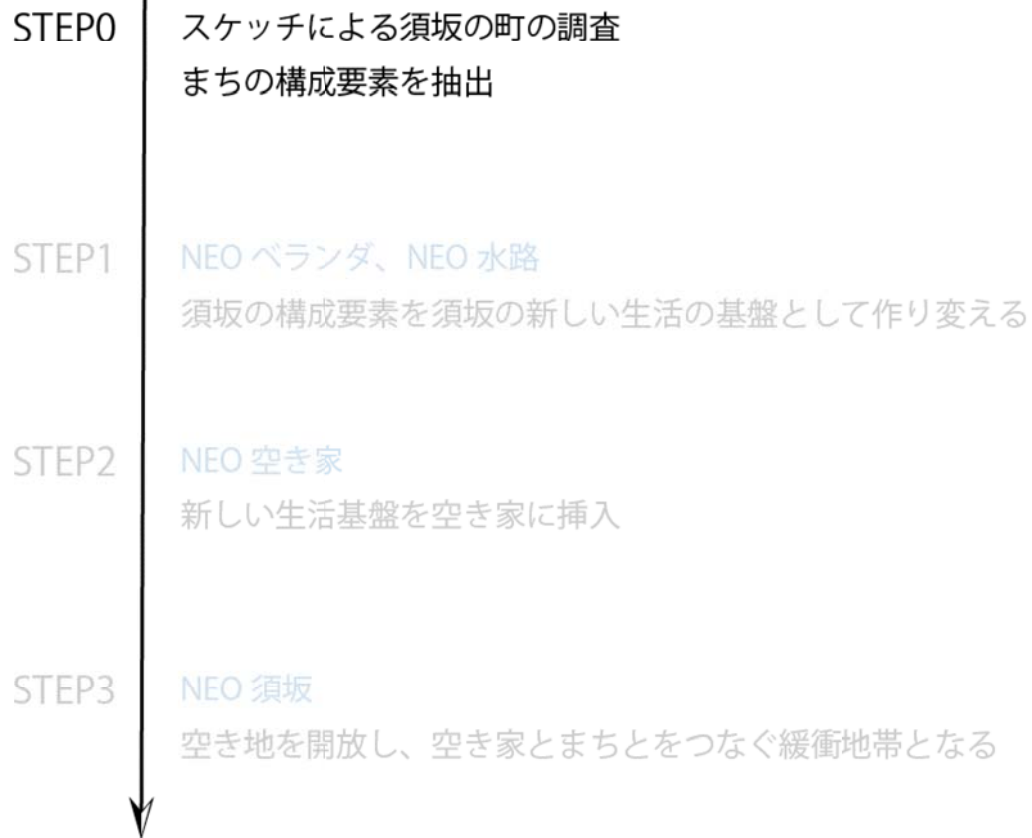


NEO: {ギリシャ語} 新しい
{英語} 復活の・改変された

NEO須坂

=かつての活気を取り戻した新しい須坂





調査方法:スケッチ

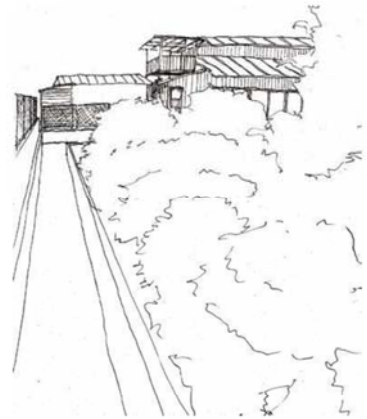
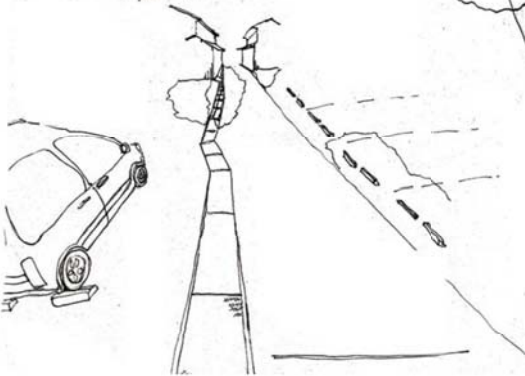
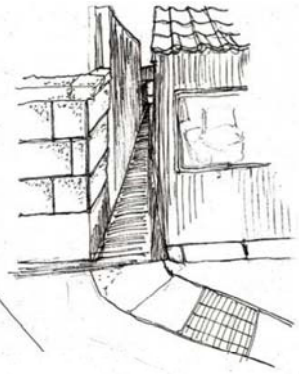
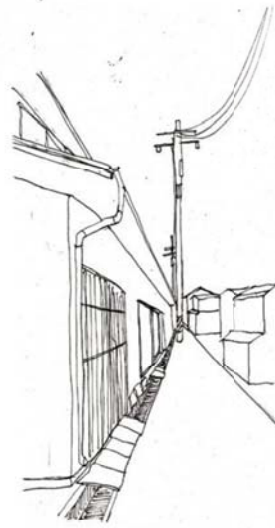
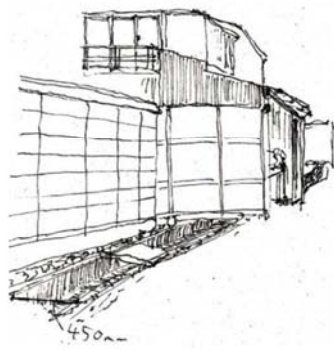
調査対象:町の構成要素

→NEO須坂への起点となるもの

須坂の構成要素

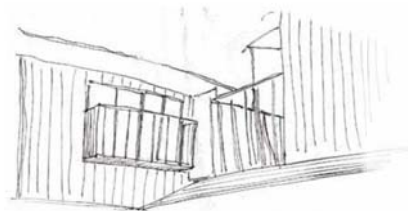
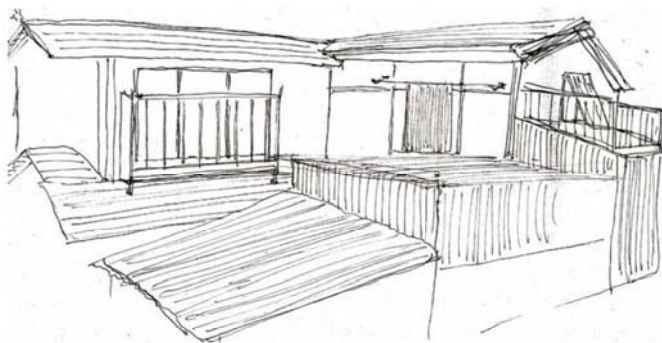
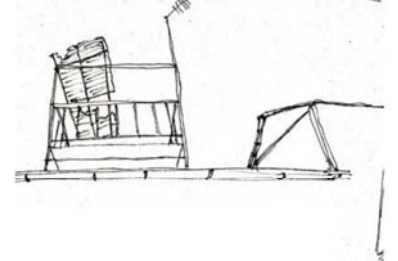
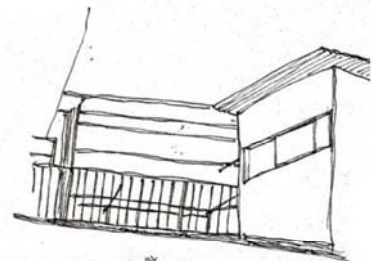
水路

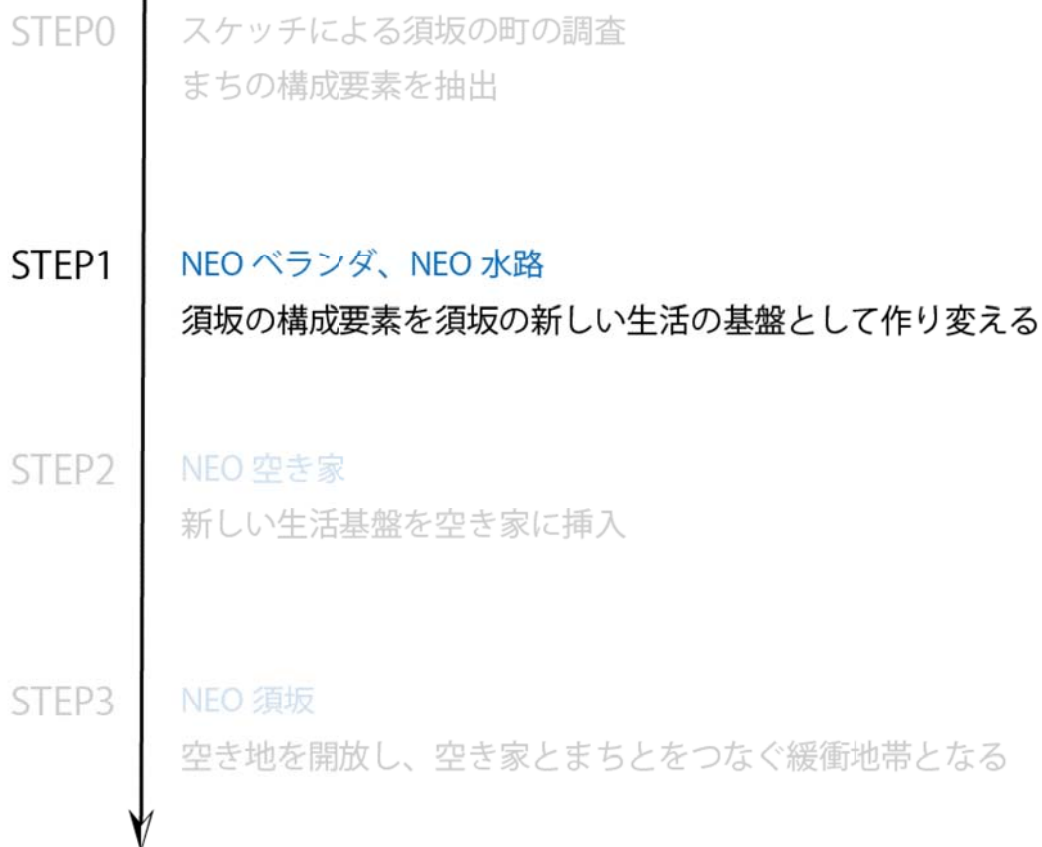
製糸業を支えた原動力の跡



生活の中で必要となった後付けのベランダ

土地の不足から生まれた、空中の付加足場





須坂に住まう住人、学生に新たな生活基盤を

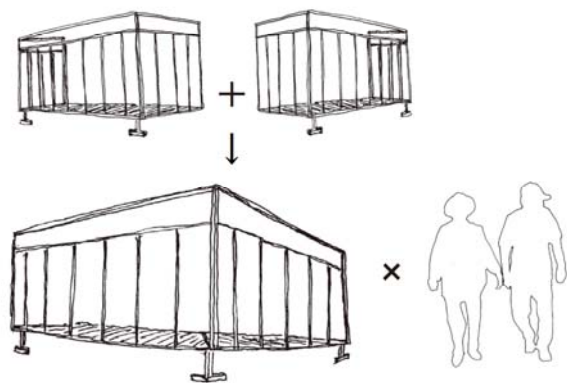
住人
近隣の人たちとの交流の時間



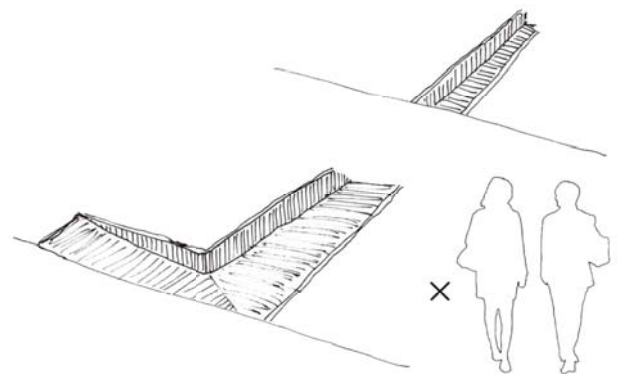
学生
自動車のない安全な通学路
友達と集まる憩いの場



ベランダと須坂の住人



水路と学生



「〇〇さんの奥さんこんにちは」
 「この間はほんとにありがとうね。また
 よろしくねえ」
 「いえいえ、いつもよくしていた だい
 ているので、こちらこそ、またよろ
 しくお願いします」
 「それよりさ、あの話聞いた?…」と、
 何気ない会話が
 あちこちで聞こえてくる。



「ねえこれ本当に行けるの?」
 「分からない」
 「先に入ってよ」
 「いやだよ。怖いもん」
 「じゃああのこと言っちゃうよ」
 「わかったよ、行くよ…」

STEP0

スケッチによる須坂の町の調査
まちの構成要素を抽出

STEP1

NEO ペランダ、NEO 水路

須坂の構成要素を須坂の新しい生活の基盤として作り変える

STEP2

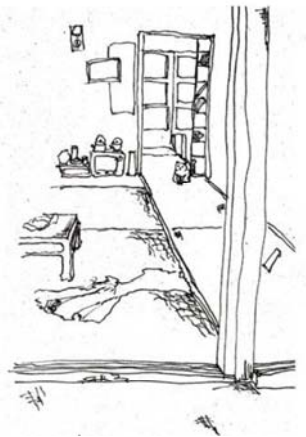
NEO 空き家

新しい生活基盤を空き家に挿入

STEP3

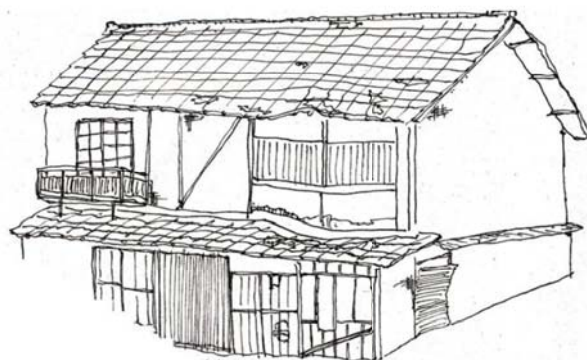
NEO 須坂

空き地を開放し、空き家とまちとをつなぐ緩衝地帯となる



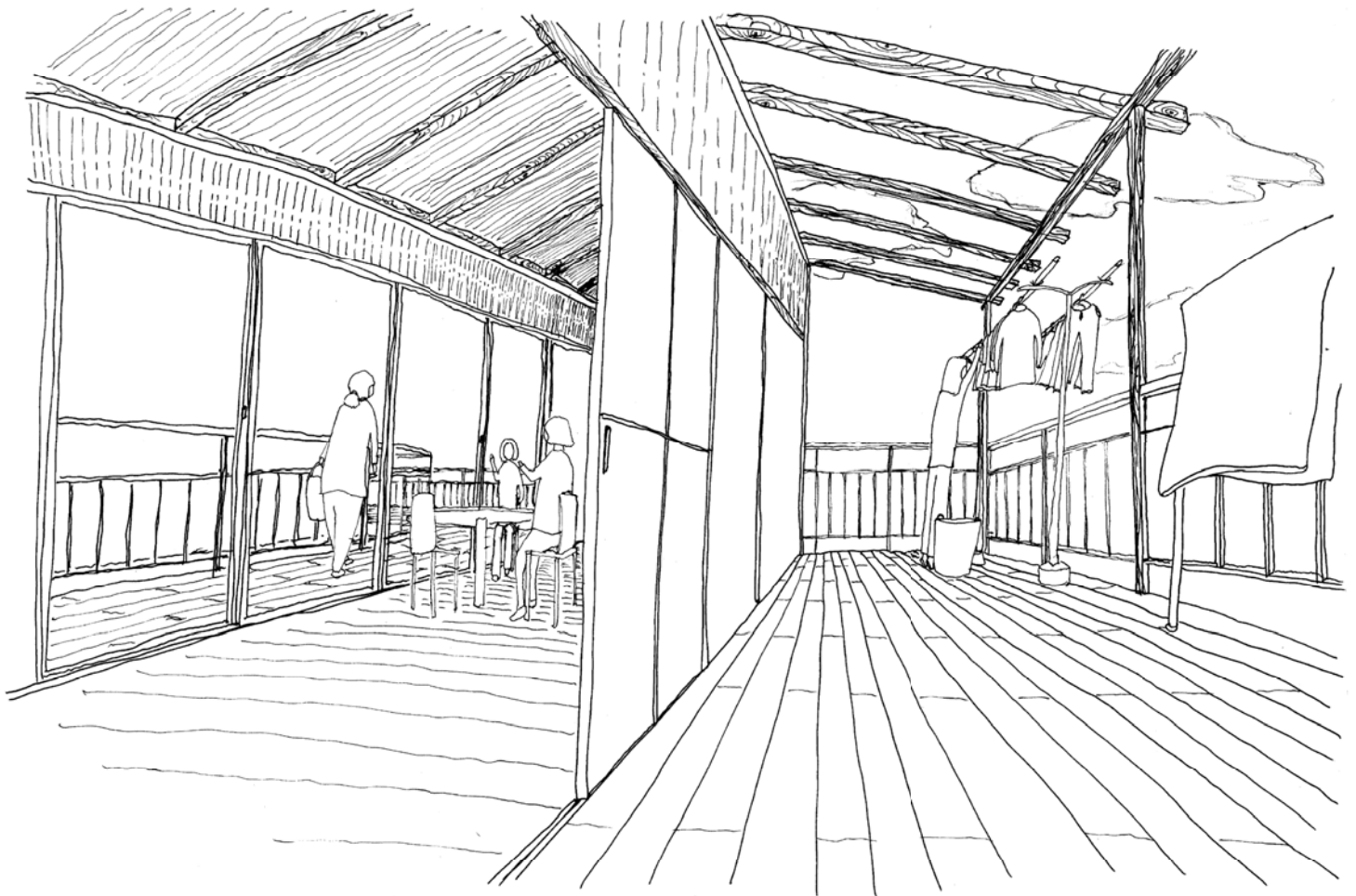
空き家へと流れ込む。

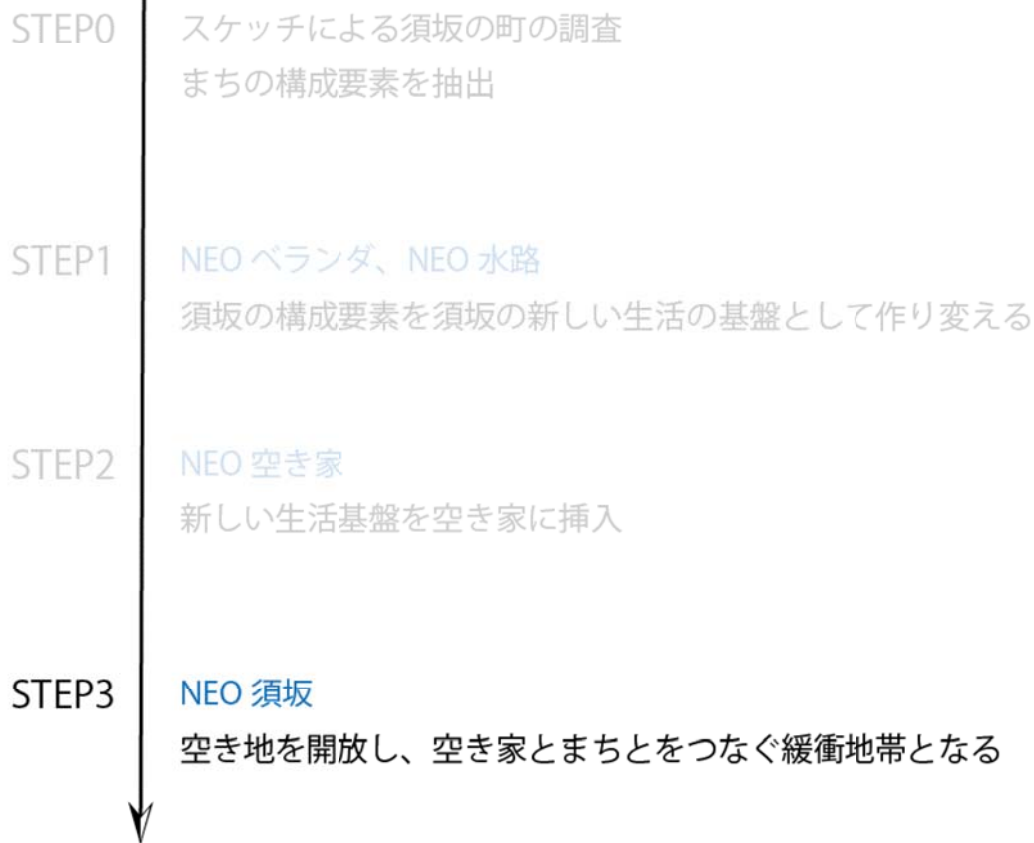
一階にはNEO水路を
二階にはNEOペランダを
階段を置かずに挿入することで、
空間が分離
公共的、私的空間を強調



平面図

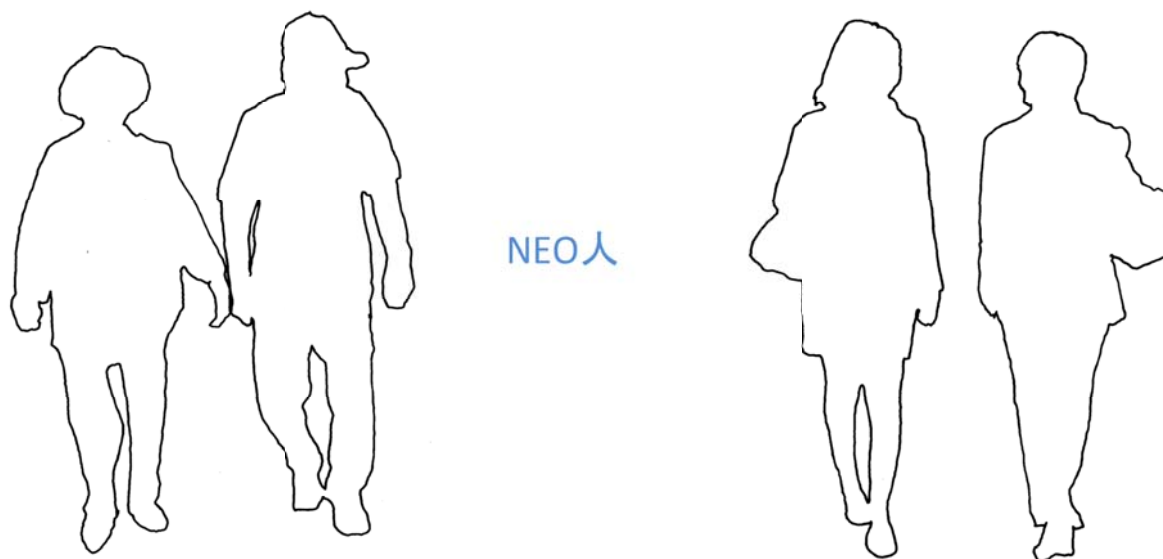






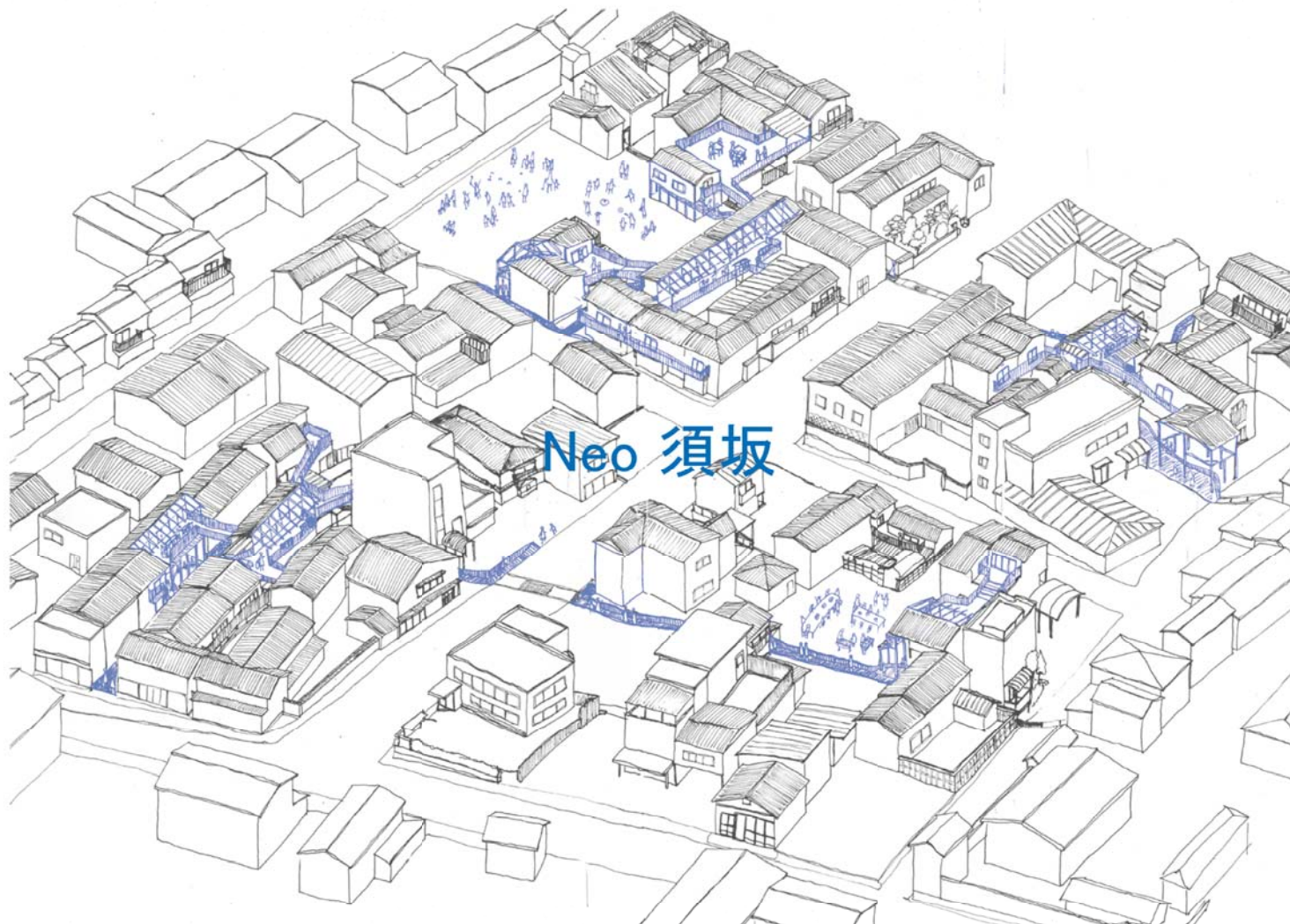
もう一つの構成要素

STEP1,2によって変化したもの
それは須坂に住まう人
→町の構成要素の一つ



STEP3では空き地を開放するだけ

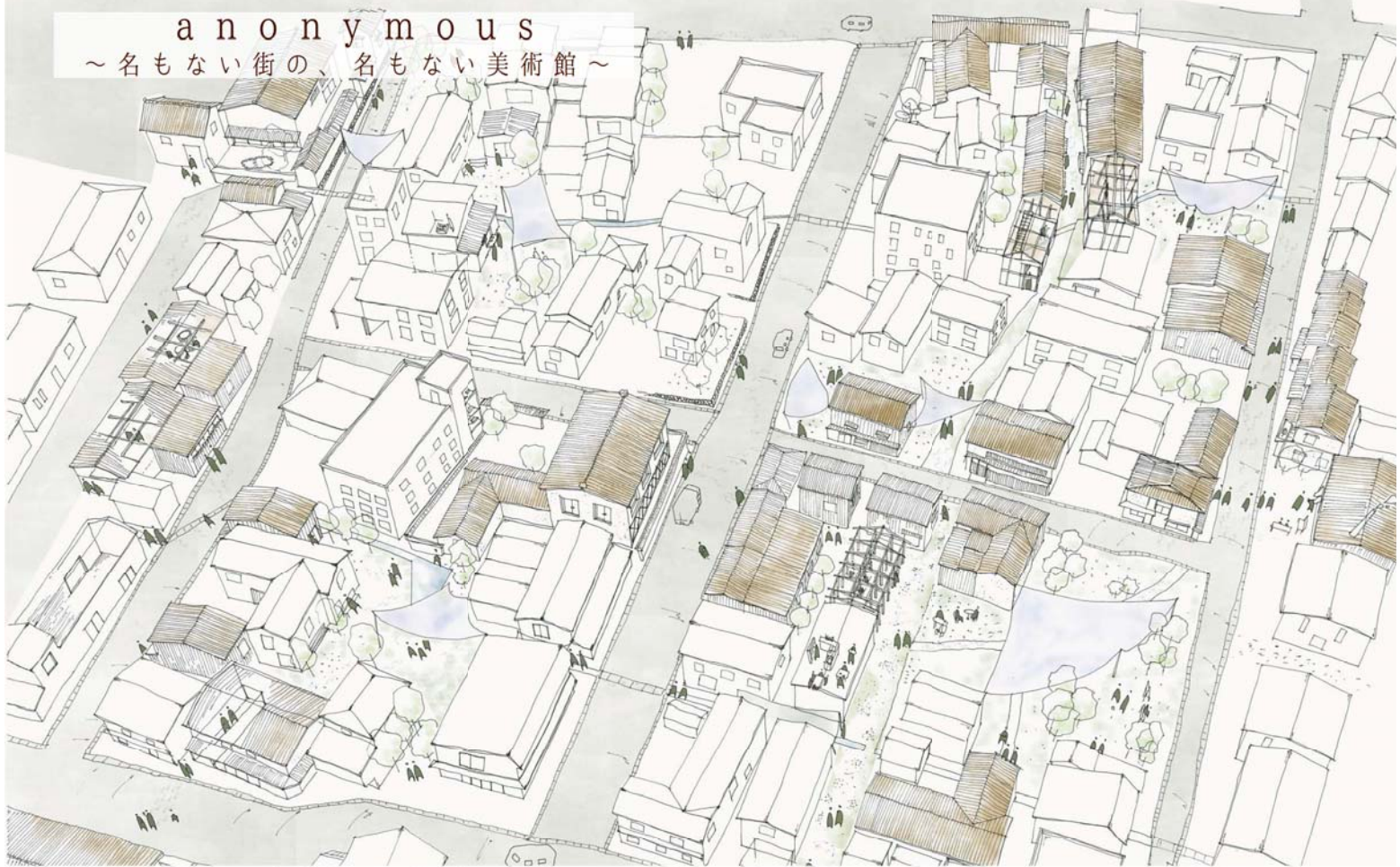
須坂の人々の生活があふれ出し、
公私混合の賑やかな場となり、
街の雰囲気象る。



ご清聴ありがとうございます

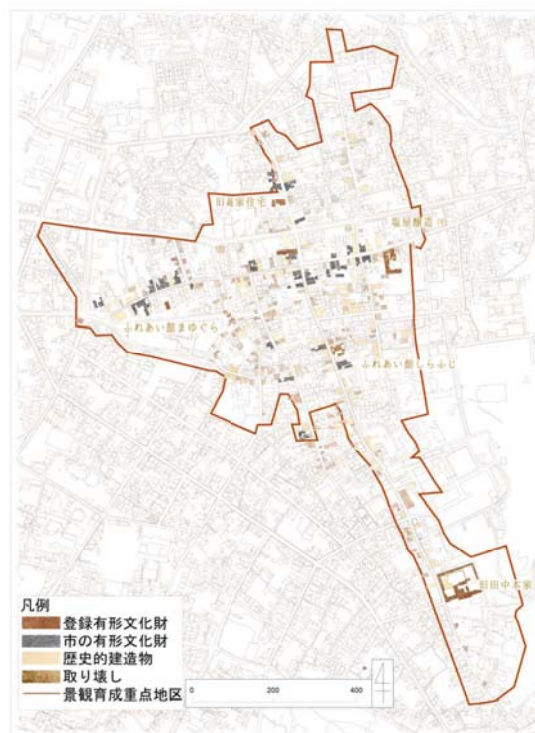
anonymous

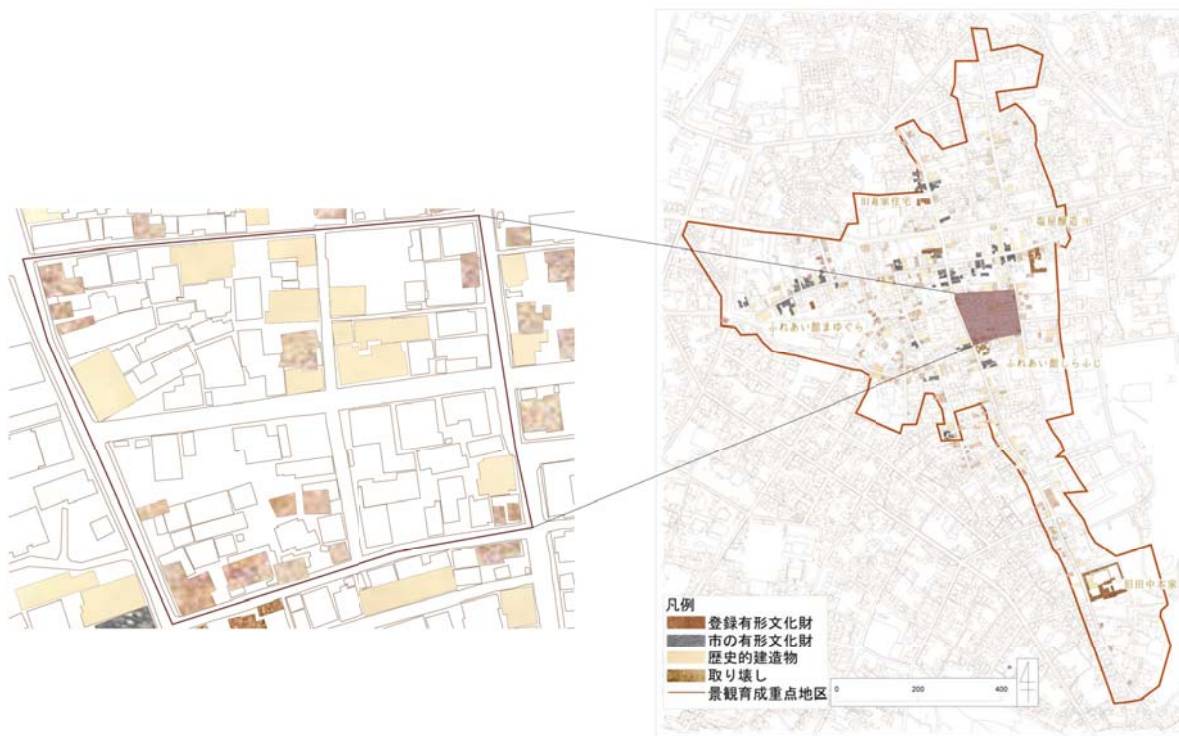
～名もない街の、名もない美術館～



発展遺構“匿名古屋”が美術館として繋がり、名がつく物語

歴都須坂に残る有形文化財





調 査

STEP 0 街区に残る繁栄の遺構



連続屋根伏図

提 案

STEP 00

現状

STEP 01

順路の動線計画

STEP 02

減築による美の創出

STEP 03

空き地の居場所化

3. 躯体路地空間

2. 躯体空間



4. 憩い空間

1. 体験空間

STEP 01 順路の動線計画

配置



「旧水路」、「細街路」を中心とした動線計画
矢じるし屋根の設置

操作

矢じるし屋根



美術館の順路の案内

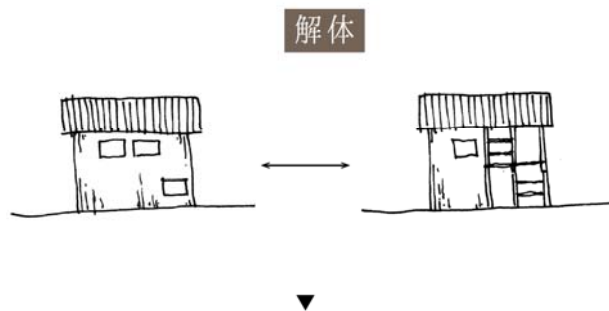
STEP 02 減築による美の創

配置



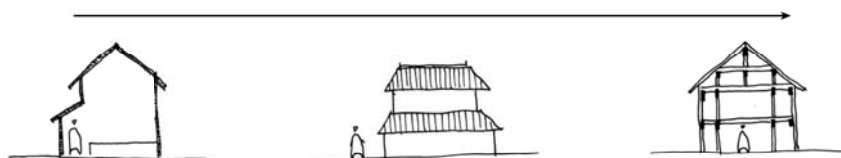
匿名古屋を減築、解体し展示空間をつくる

操作



対比により、建物の魅力・美しさが現れる

プログラム



様々な空間体験による、美術館という機能が生まれる

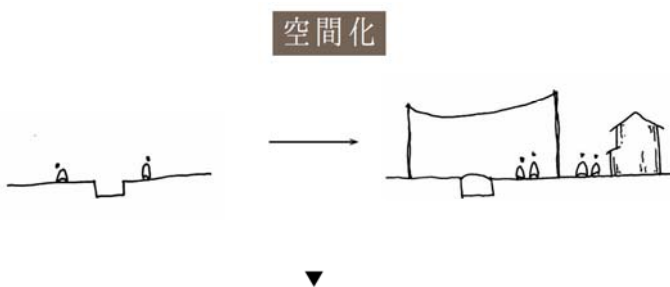
STEP 03 空き地の居場所化

配置



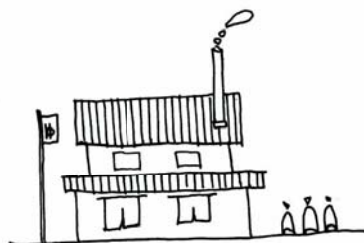
遊休空間を人々の溜まり場として整備

操作



水路周辺に屋根をかけ、空間が空き家と繋がる

プログラム



イベントによる、建物のポテンシャルの発揮

人々にとっての憩いの場となる

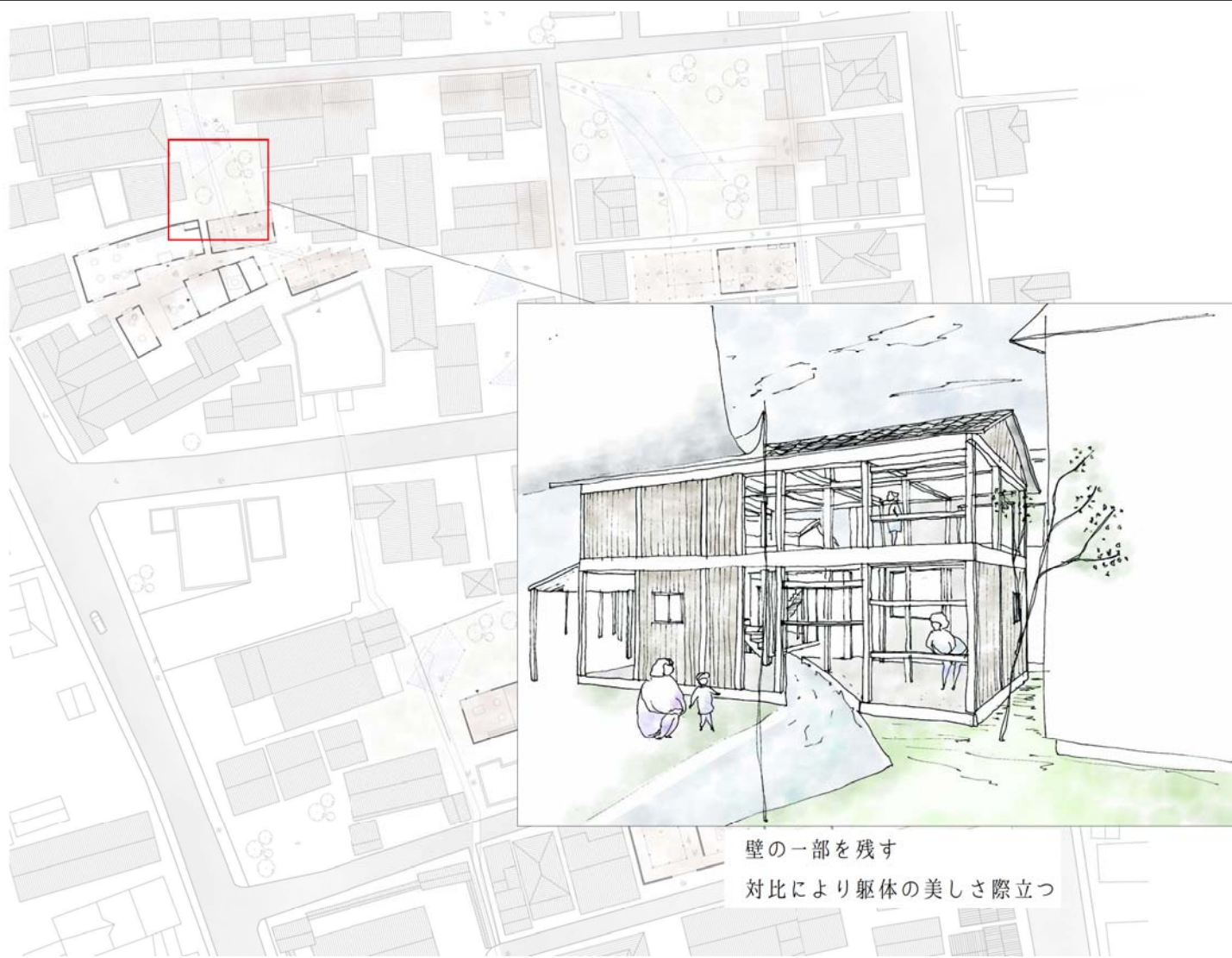
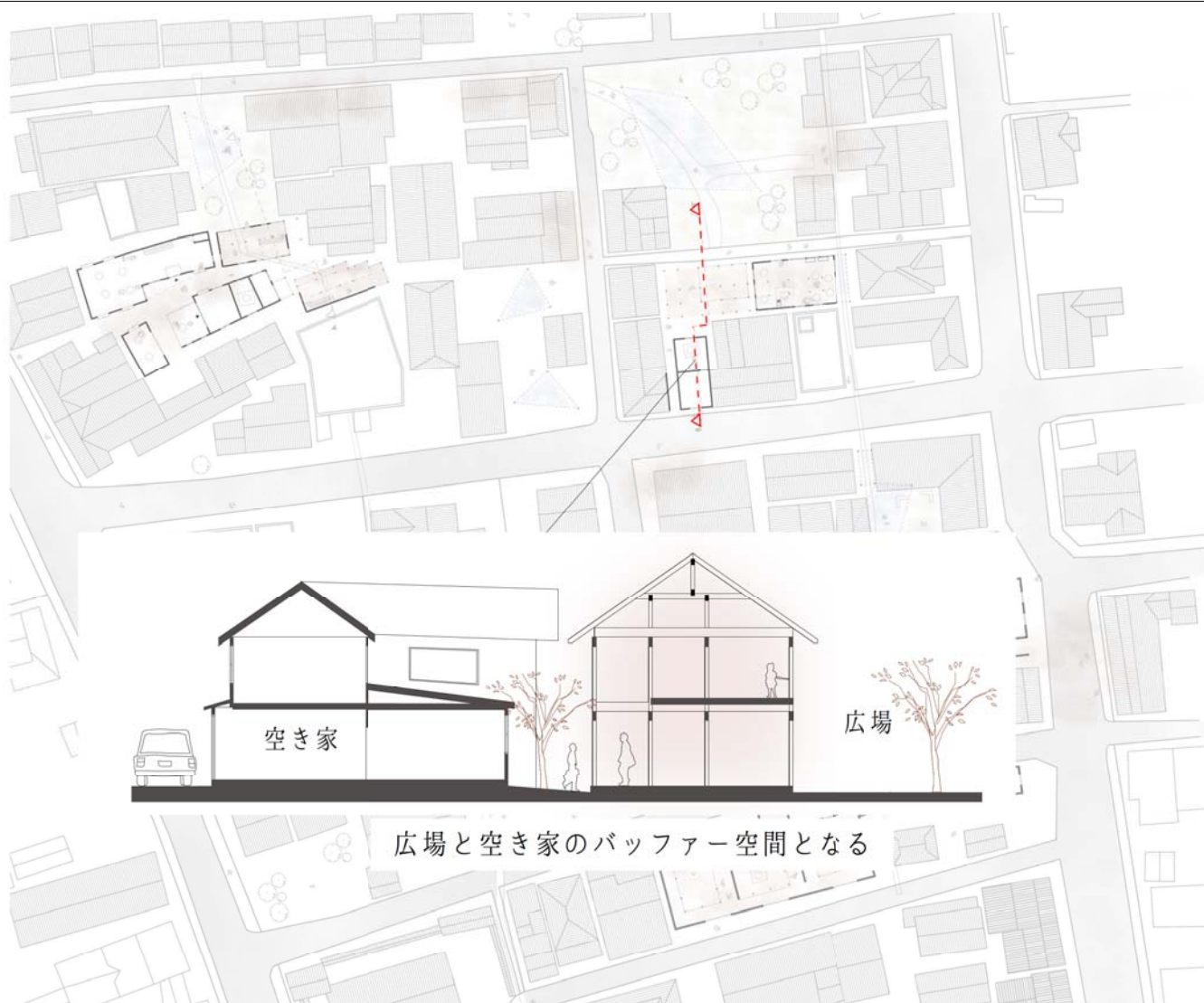
平面計画

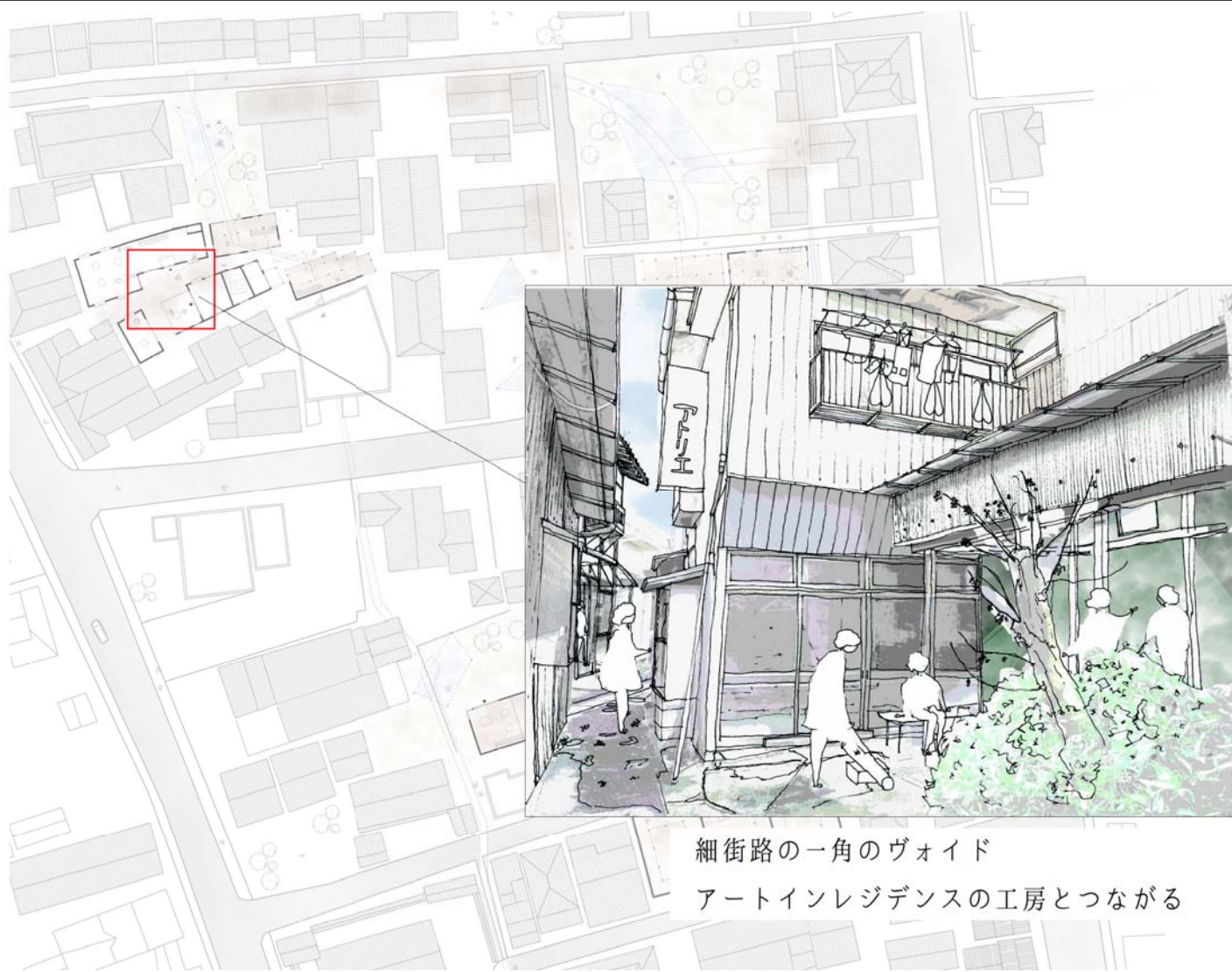
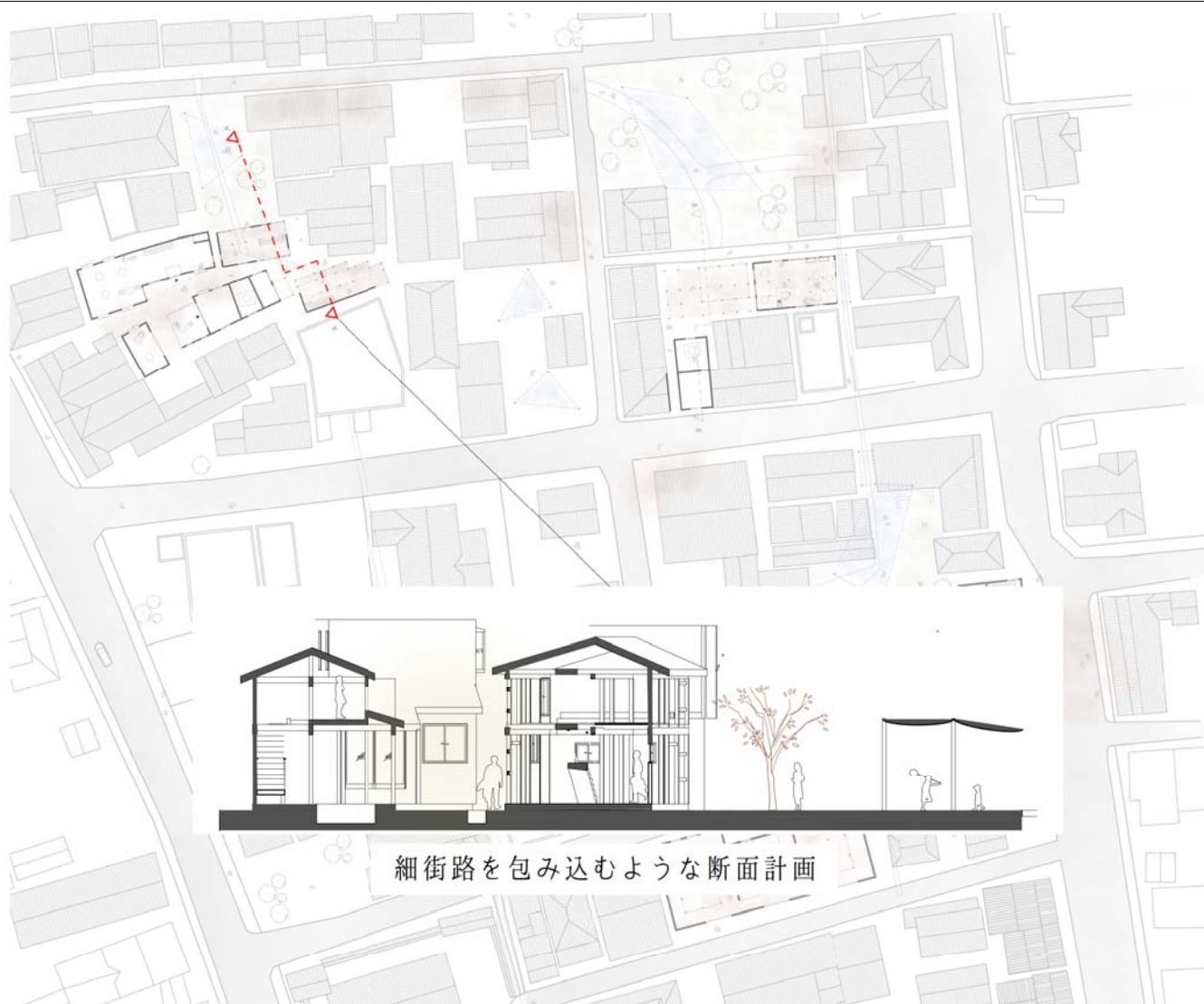


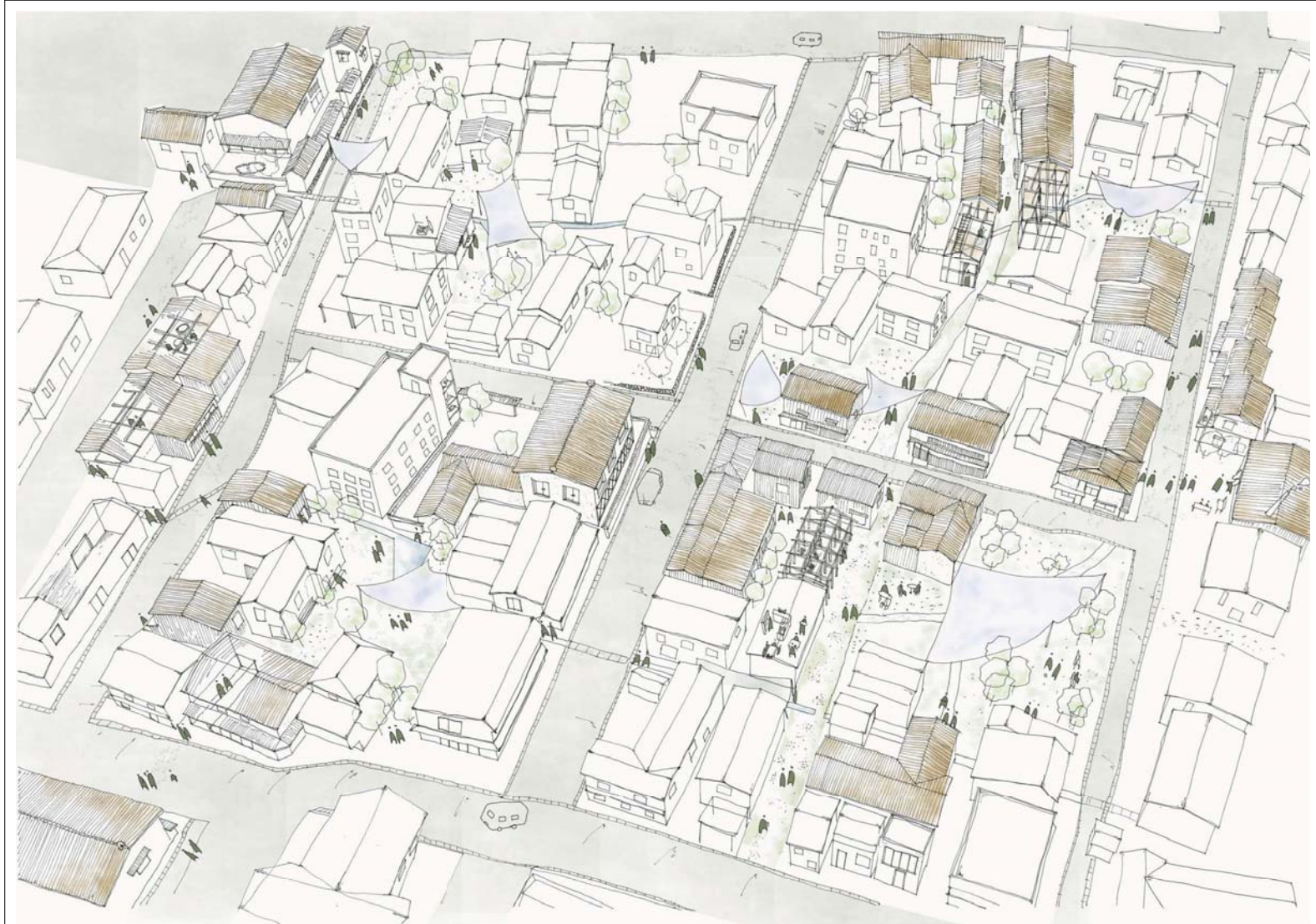
しらふじをスタートとして
街区を一周する動線計画



長屋の空間体験の入り口
ファサードは保存されている







招き箱



須坂においで
こっちにおいで
歩いておいで

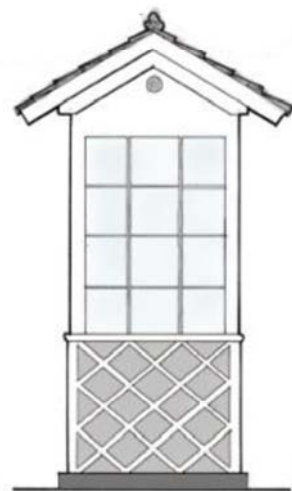


近道が好きですか？
知らない道はわくわくしませんか？

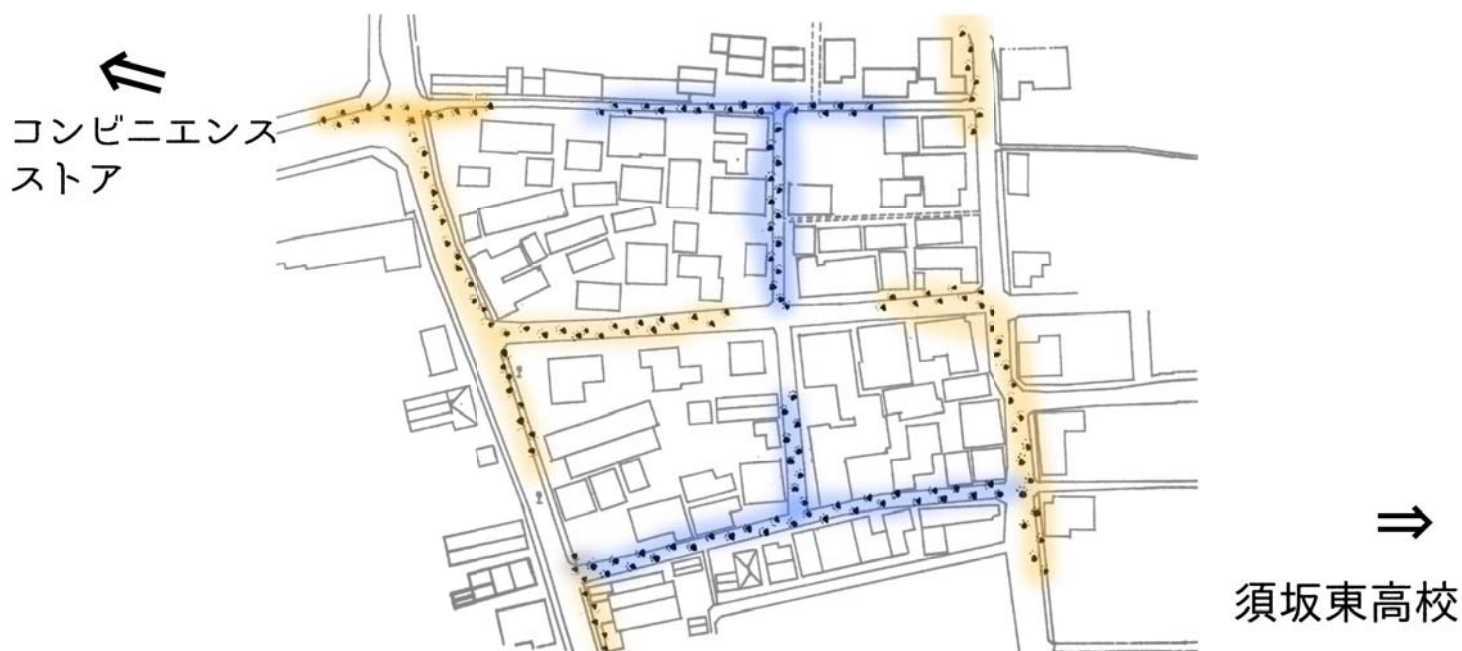


招き箱

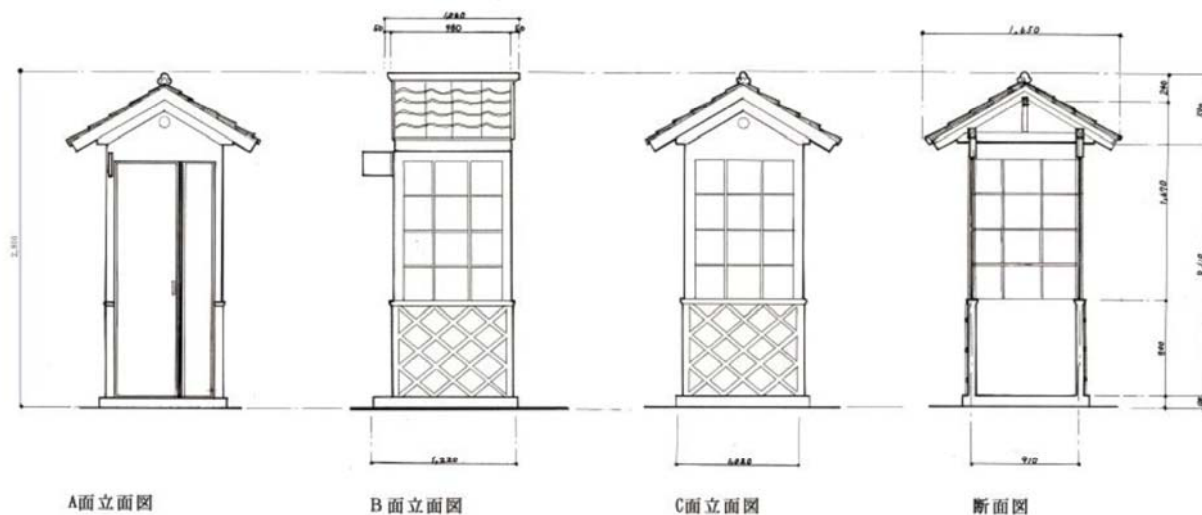
あなたを呼んでいます。
『こっちの道へおいで』って。
もっと須坂市を歩いてみない？



0. 対象街区現状



招き箱・・・等身大の箱×蔵



STEP1 気づいて！



STEP2 裏道へ招く



【招き箱 種類】



小さな図書館
1冊持っていくと1冊
持ち帰ることができる

展示



小さな美術館
学生の作品が
展示される

ベンチ



バスを待つ人のため
街歩きのため

ソーラー パネル



ソーラーパネルによる電
気の配給。扇風機やコ
ンセントが設置される。

時計塔



中村時計店の
看板時計

案内所



須坂市の観光案内
パンフレットや
現在地の分かる地図

スタンプラリー



観光客も増え街歩き
のためのBoxが増える

喫煙所

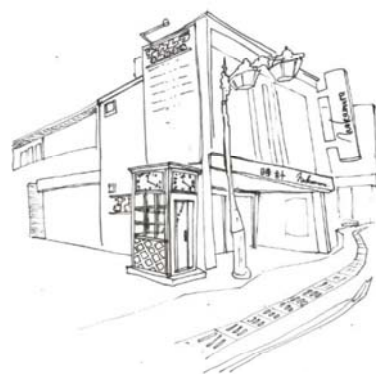


学生だけでなく、大
人にも認知が広まる
大人のためのBox

AED



須坂病院との連携も
はじまる。

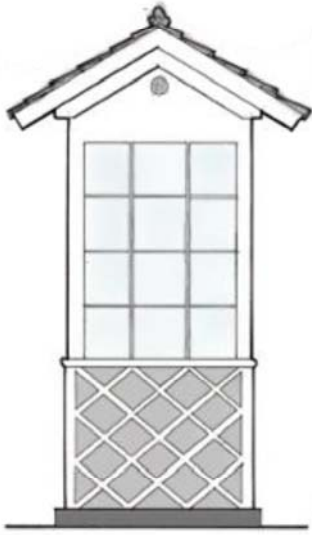


『20年後も選ばれる都市』

須坂市へ



招き箱は

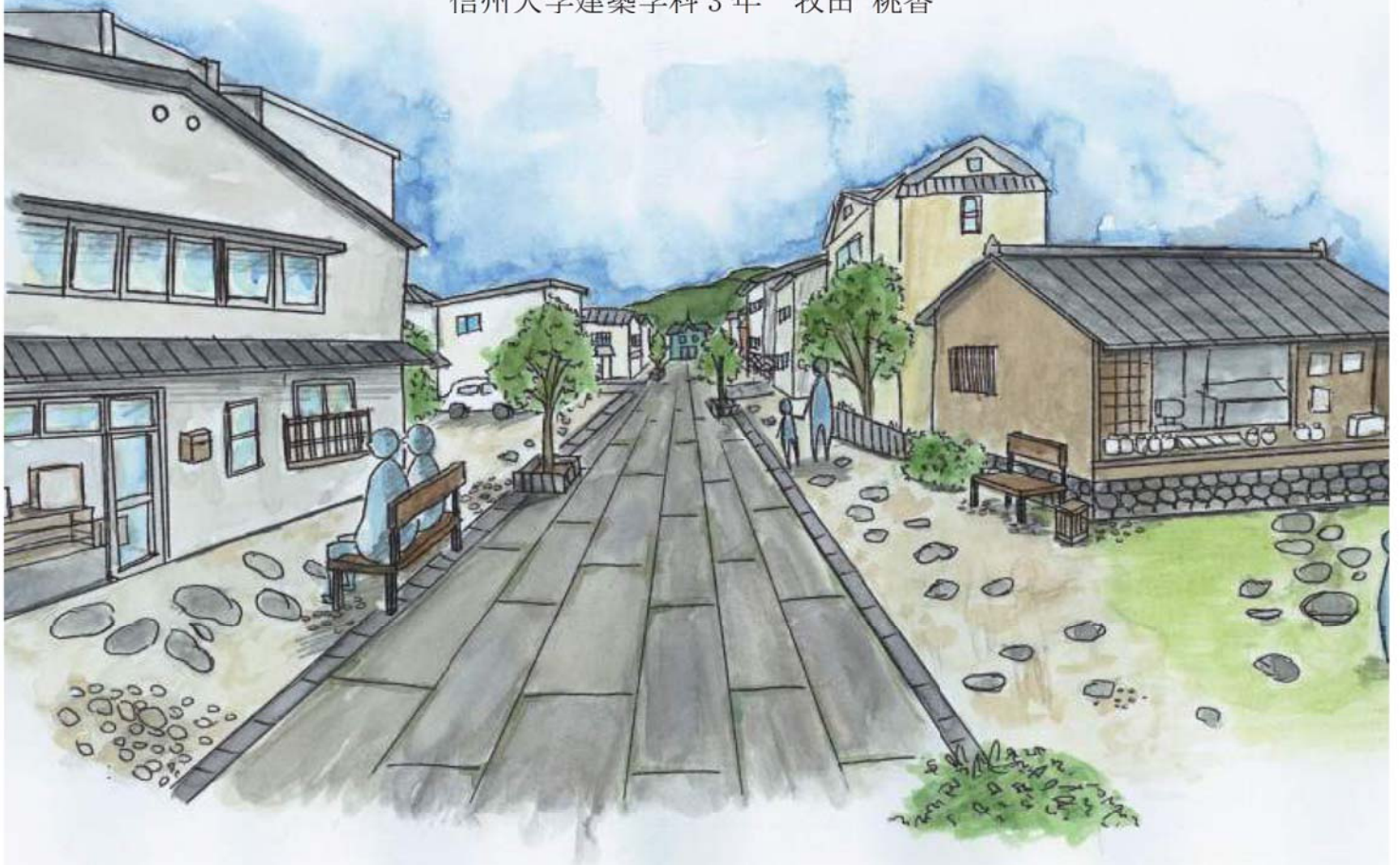


あなたを呼んでいます。
こっちの道へおいでと呼んでいます。
あなたは須坂がもっと好きになりますよね？



ひろがる みちとまち

信州大学建築学科 3 年 牧田 桃香



Concept

蔵や町家の街並みの継承とそこに暮らす人々の生活を想うまちへ。

明治から昭和初期にかけて製糸業によって栄え、
今も美しい街並みと歴史的な建物が保存されているまち、須坂。

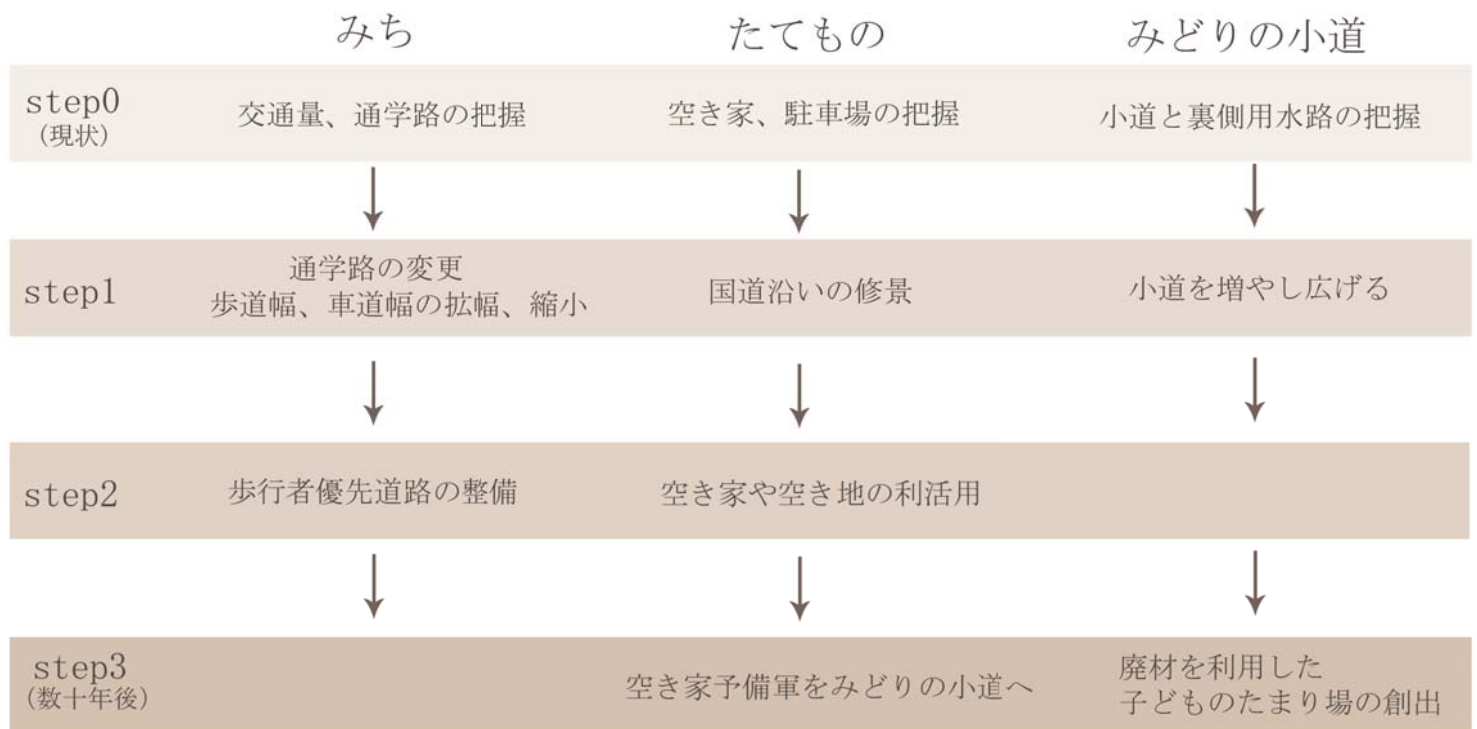
しかし、当該地区は道が国道の抜け道として利用され、安全が損なわれている。
また、空き家や空き地が点在し、歴史的な街並みをくずしている。

このような問題点から新たな みち と施設の計画を行い、
みち そのものが行き交う人で満たされる姿を目指した。

この計画が、ここに暮らす人々がこの まち に誇りを持てるきっかけになることを願っている。



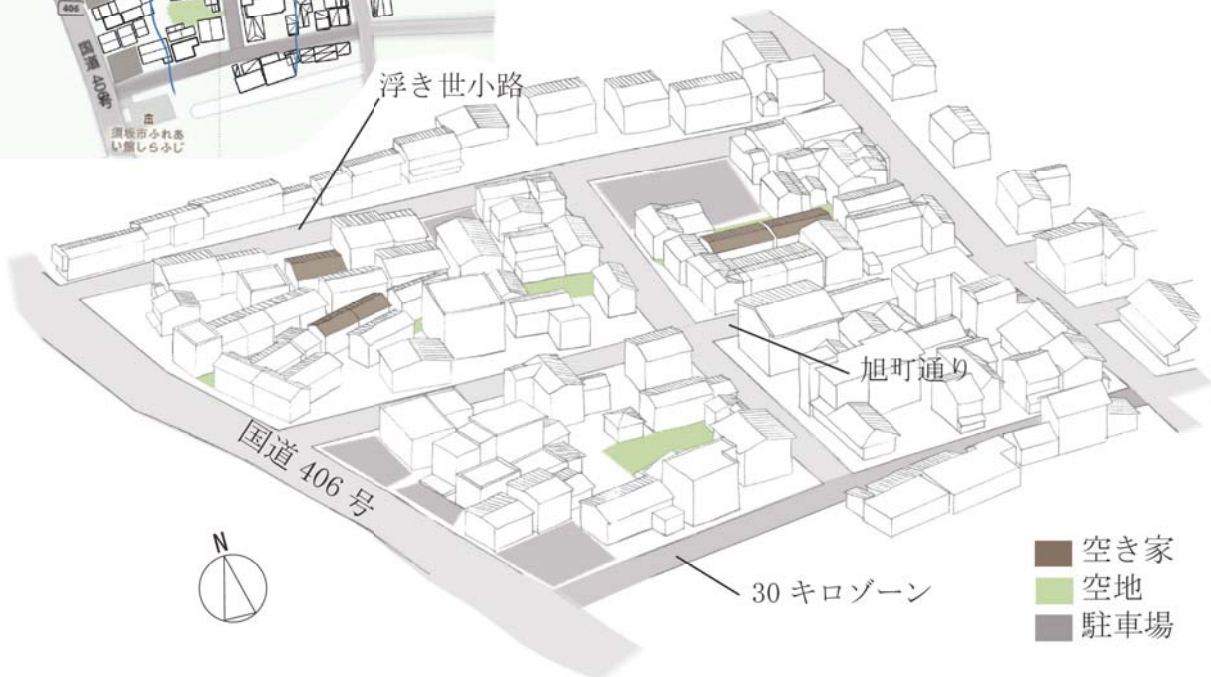
Program



step0 現状の把握



蔵の街並みと空き家や空地、建物の間を紡ぐ小道、かつて製糸業の発展を支えた裏側用水、、、。様々な要素が点在するこの街区は三本の主なみちと辻で構成されている。



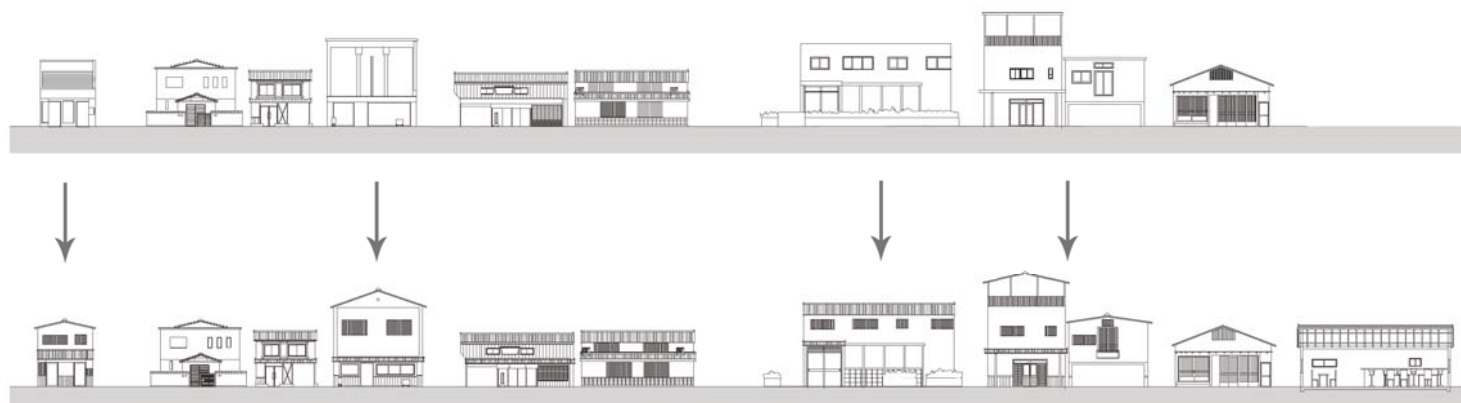
step1 みちの用途の変更 国道沿いの修景



旭町通りを歩行者優先のみちとする。
 浮き世小路を車も通れるみちとし空地や駐車場を利用しみちを広げる。
 この地区の通学路を浮き世小路を通るルートから、
 旭町通りを通るルートへ変更する。

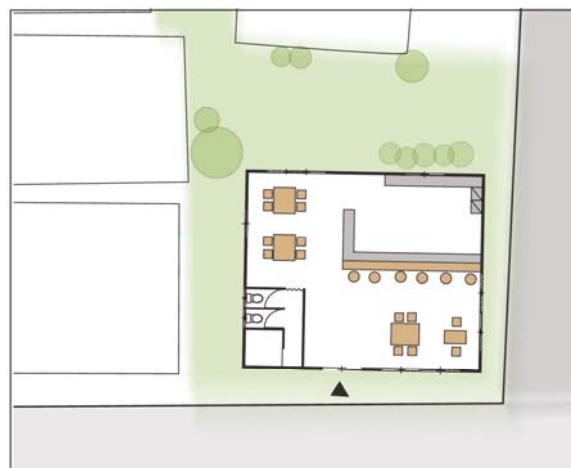


国道沿いの修景 現代的な外観の建物を蔵の街並みに調和させる



蔵レストラン

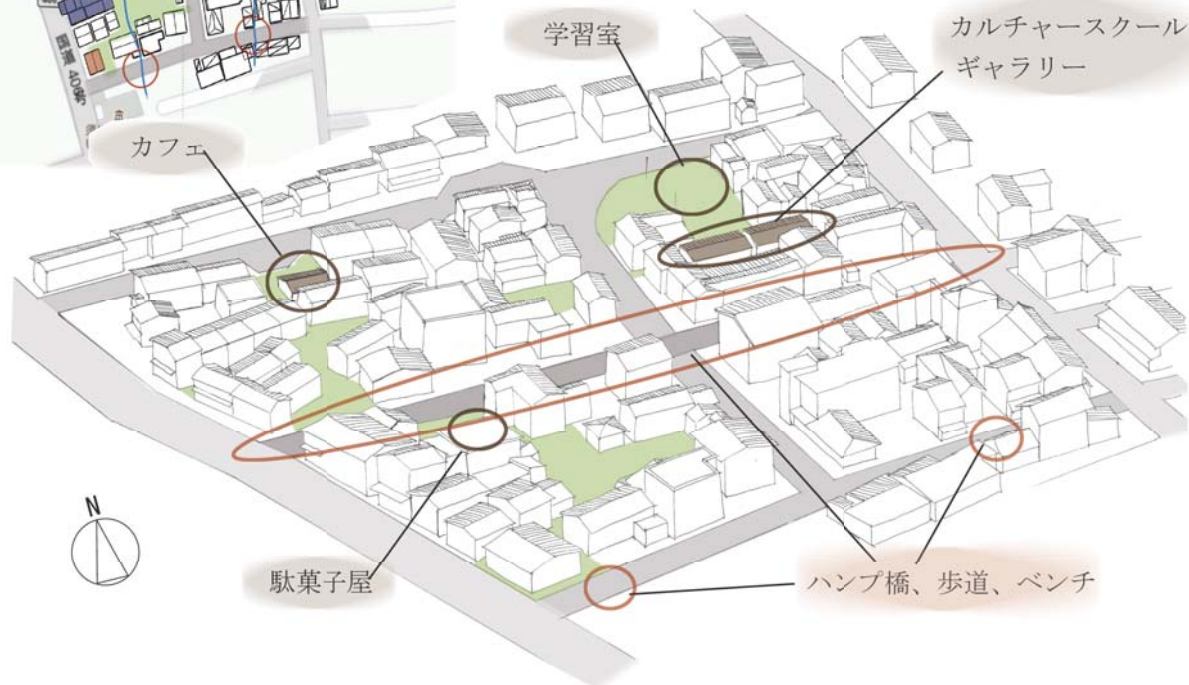
須坂の蔵で作られた味噌や地酒が楽しめる食事処。



step2 歩行者優先道路の整備 空き家、空き地の利活用



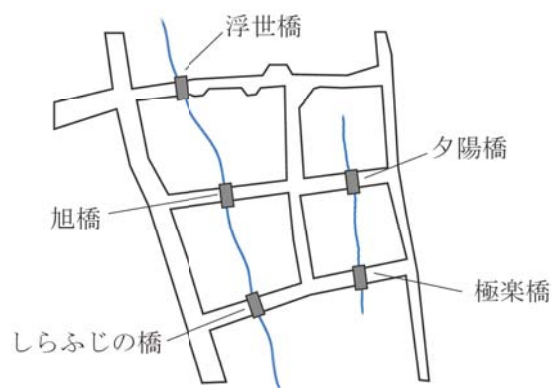
歩行者が安心して通行できる空間を確保するとともに
新しい施設やみちに人の賑わいが溢れる



歩行者優先道路の整備



歩行者が安心して通行できる空間の確保。
みちを蛇行させ、車の速度をあげさせない。



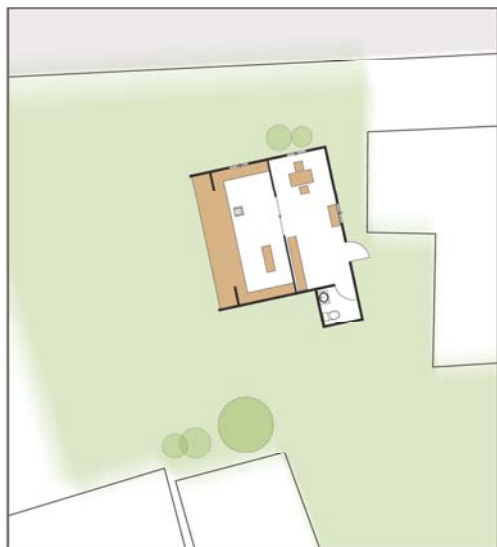
裏側用水路が交差している場所に
ハンプの役割をする偽橋を設ける。
→用水路の存在の再認識
→みちに愛着をもってもらう
名前をつける
それぞれの橋のデザインを変える

しらふじの橋

空き家、空き地の利活用

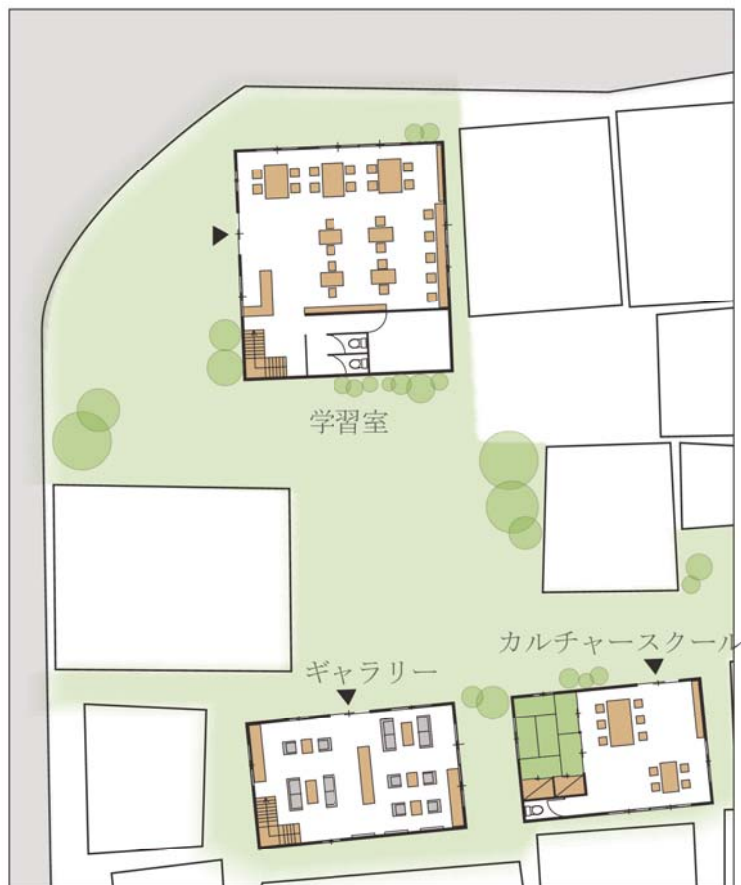
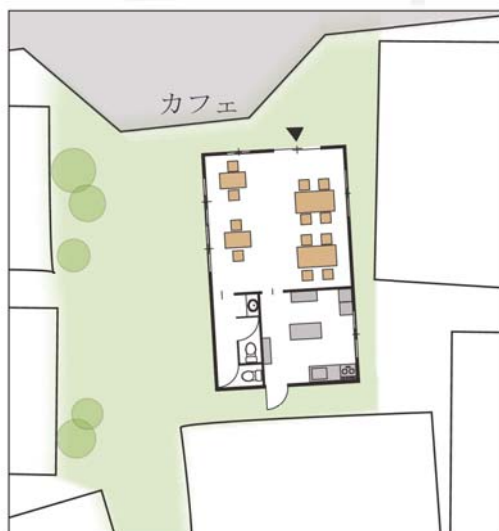
駄菓子屋

昔ながらの駄菓子屋にぼたもち石という須坂のまちのデザインコードを取り入れる

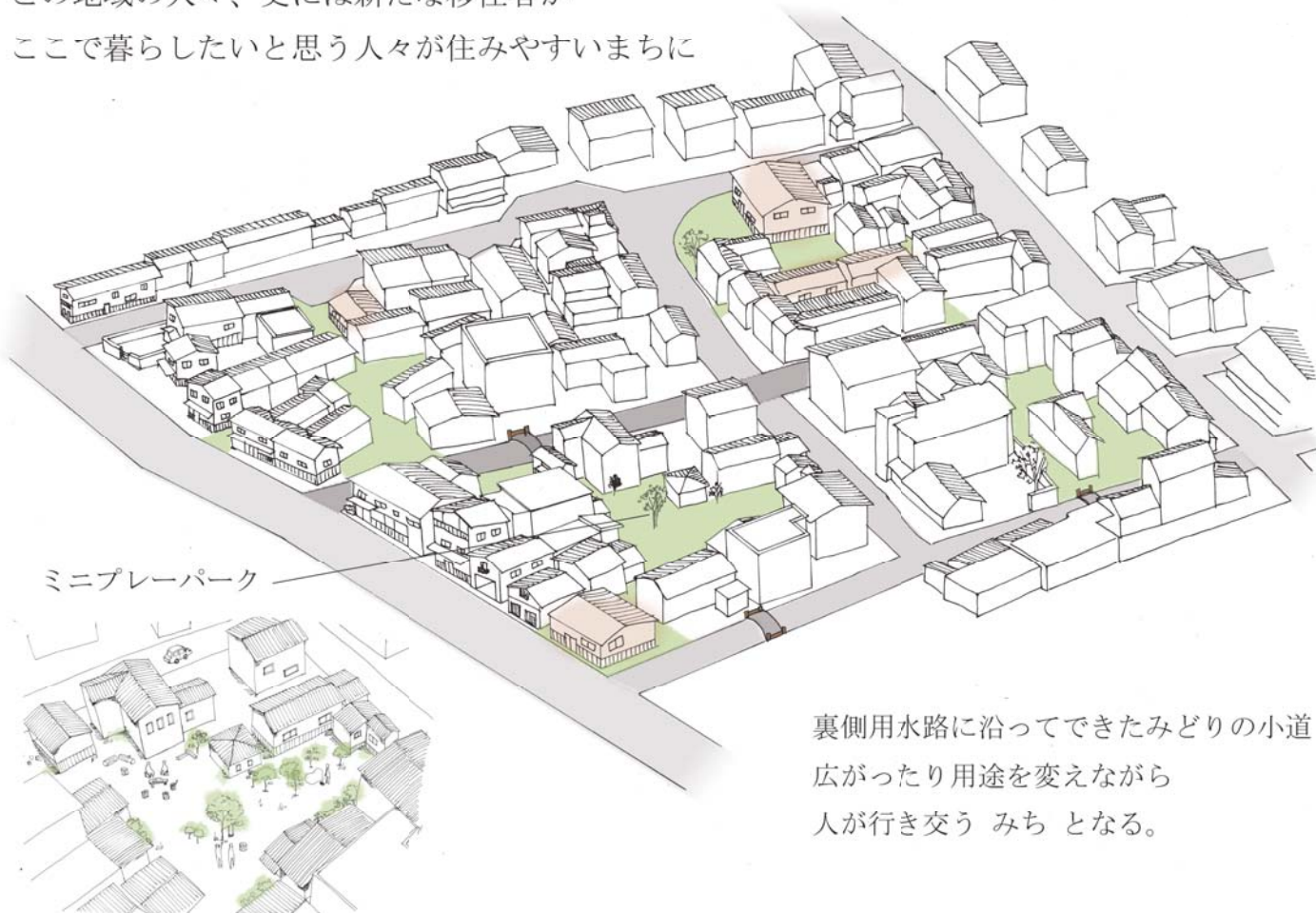


空き家、空き地の利活用

施設周辺にも人の賑わいが溢れる



この地域の人々、更には新たな移住者が
ここで暮らしたいと思う人々が住みやすいまちに



ご清聴ありがとうございました。